

## 百観音の石仏たち

百観音は、那賀地区（旧緒川村）<sup>かわむかいなんたいさん</sup>の川向男体山にあり、西国33札所、坂東33札所、秩父34札所を合わせた100札所の観音霊場の本尊がひとつの山中にまつられていることが全国でも珍しいことから、平成6年3月10日に川向男体山の全域を当時の緒川村が史跡に指定し、現在は市指定史跡になっています。

今回は、今までに行われた石仏調査の成果を紹介して百観音の魅力のひとつをお伝えします。



▲百観音のある川向男体山

### 百観音の位置とあらまし

那珂川大橋のある野口地区から県道12号線を北へ向かい、那賀地区に入ると右に百観音の看板がある交差点があります。その交差点を右折して百観音橋を渡ると、百観音に至ります。

駐車場の右手から山道に入り、山道の途中を左折して上るとあずまやがあり、その裏側に「観音洞窟」があります。その洞窟には、両側に観音像が並び、屈折して進んだ最奥部には大日如来像が安置されています。

「観音洞窟」から山頂に至る途中には、ミョウバン水がたたえられていると言われる「獅子穴」、観音像が安置されている「天狗穴」や「巾着岩」等が点在しています。

### 石仏調査の成果

『ふるさとの野仏たち』によれば、百観音には総数で91体の石仏・石塔が確認されており、その内訳は、大日如来像が2体、聖観音像が23体、千手観音像が28



▲「観音洞窟」の観音像

体、十一面観音像が28体、如意輪観音像が6体、その他が4体です。

その他の中に、「奉納西国坂東秩父供養塔」との銘のある巡拝塔があります。この塔は、西国33札所、坂東33札所、秩父34札所を合わせた100札所の観音霊場をすべて巡礼した記念に造られたものです。江戸時代の人々にとって、百札所の観音霊場のすべてを巡礼することは、一生に一度は成し遂げたい憧れのようなものでした。この巡拝塔の造立は、『緒川村史』に記されているように、那賀在住の小森清蔵という盲目の人が、地域の有志から寄付を募り、人々のために100札所の観音像を彫ることになる契機になったと想像されます。

その後、百観音は、100札所の観音霊場を巡礼したのと同様に観音の功德が得られると信仰され、春秋の彼岸の祭日には多くの参詣者で賑う名所になりました。

百観音の石仏たちは、無言ですが、那賀地区の歴史を微笑みながら私たちに伝えてくれています。



▲巾着岩の千手観音像

### 【参考文献】

庚申懇話会『日本石仏事典』雄山閣1975年  
緒川村史編さん委員会『緒川村史』緒川村1982年  
緒川村郷土文化研究会『ふるさとの野仏たち』緒川村教育委員会1991年